授　業 科目名	基礎法特論（法史学Ⅱ）	選　択	開講年次	３	単位数	２
科目区分	専門科目／教科に関する科目（地歴）					
サブ タイトル	日本近世・近代の法と社会		担当者	三田　奈穂		
講義概要	【概要】本講義では、戦国時代から明治時代にかけての日本の「法」の歴史を概観しながら、「法とは何か」ということについて考察します。さまざまな法律が制定され、直接あるいは間接的に法と接する機会が多くなった現代社会において、その「ルーツ」について考えることはとても大切なことです。講義では、近世・近代の法がどのようなものかを学びながら、現代につながる法の根源を考えてもらいます。 【到達目標】日本の近世そして近代の法と社会を学ぶなかで、①「法」は、時代や社会、さらには人々の意識に応じて変化するものであること、②法や制度に関する歴史的な知識の取得、を身につけてもらいたいと思います。					
履修条件	日本史に興味のある学生、積極的に講義に参加する学生の受講を希望します。					
教科書・ 参考書	【教科書】霞信彦ほか『日本法制史講義ノート』（慶應義塾大学出版会、2011 年） 【参考書】浅古弘・植田信廣・神保文夫・伊藤孝夫『日本法制史』（青林書院、2010） 霞信彦・漆原徹・浜野潔『日本法制史 史料集』（慶應義塾大学出版会、2003 年）					
授業回数	内容					
1	戦国大名と分国法					
2	分国法を読む					
3	武家諸法度の変遷					
4	徳川吉宗と公事方御定書					
5	江戸時代の裁判					
6	開国と不平等条約					
7	明治維新と政体書					
8	幕藩体制の解体と法典の近代化					
9	廃藩置県と明治初期刑事法					
10	旧刑法制定への道すじ					
11	旧刑法の編纂と村田保					
12	明治憲法の成立					
13	民法典論争と法律学校					
14	韓国併合と不平等条約					
15	法制史からわかること —法とは何か—					
評価方法	成績評価：小テストおよび授業内レポート【20%】・期末試験【80%】 そのほか、抜き打ちで出席確認をおこない、欠席者は１回１点の減点とします。					
評価基準	上記内容について、よく理解し適切に表現できた者には「Ａ」評価とします。理解や表現に不適切な点のある者にはその程度に応じて「Ｂ」または「Ｃ」とし、理解自体が不十分な者はその程度に応じて「Ｄ」または「Ｅ」とします。					
その他	履修者は、高校卒業レベルの古文・漢文および日本史の知識を有することがのぞましいですが、授業では現代語訳や背景となる歴史的事実に関する解説も適宜おこないます。					